



全日畜だより

第 62 号

2024 年 11 月 28 日

<https://www.alpa.or.jp/>

SDGs事業（JRA 畜産振興事業）の ワークショップを千葉市で開催しました

- ◎ 開催日時: 令和6年9月 25 日(水) (13:00~16:00)
- ◎ 会 場: ホテルポートプラザちば(千葉市)
- ◎ 今年度から新しく開始した「畜産経営の持続可能な開発目標対応調査事業(JRA 畜産振興事業)」のワークショップを千葉市で開催しました。参加者は、千葉県をはじめ茨城、埼玉、山梨などの関東地域から、畜産経営者及びその関係者 14 名、関係団体6名、行政関係者 13 名、飼料メーカー関係者 17 名、金融機関2名ほか、報道関係者3名、事務局を合わせて 62 名でした。



第1部では、(公社)畜産技術協会の八木常務理事から、畜産におけるアニマルウェルフェア(以後、「AW」という。)についての講演があった。概要は、家畜は人間が利用し最後は肉などにするが、心と身体を良い状態にしてあげるとい考え方であり、AWの基本的な概念として次の「5つの自由」があること。①飢え、渇き及び栄養不良からの自由、②恐怖及び苦悩からの自由、③物理的及び熱の不快感からの自由、④苦痛、障害及び疾病からの自由、⑤通常の行動様式を発現する自由の5つで、これらを考慮しながら家畜を飼育することが重要。さらに、皆さんがよく誤解していることで、AWとは「できているか」、「できていないか」の0か100かではなく、あくまで連続的なもので、5つの自由の項目を個別にどこまでできているかを総合的に判断することでした。(詳細は後日公表する速報を参照願います。)

第2部では、放牧養豚を行って比較的高い水準のAWに対応していて、しかも最初からAWを意識して行ったのではなく、自分たちが行いたい畜産経緯を行った結果が高い水準のAW対応だったという事例、積極的に畜産DXを導入して、防疫対策等で繁殖、育成と肥育を100Km以上離れた農場で行っており、それらの相互の情報交換が効率良くできて、従業員の労働軽減にもなっていること、ひいては豚にも優しいAWとなっている事例、最後に牛の歩数を計測し、その変化から発情を検知するシステムを

導入したが、発情発見よりも疾病の早期発見に大きな働きをして、乳量ほか搾乳時の諸々のデータを記録するシステムと組み合わせることで、飼料給与をはじめとした飼養管理の合理化を可能にし、疾病の早期発見による乳牛のストレス軽減で、AW 推進にもなっている事例が発表された。

なお、この開催にあたっての、千葉県、山梨県基金協会ほか関係各位から多大なご協力をいただきましたことに関して感謝申し上げます。

AW 講演者



(公社)畜産技術協会
常務理事
八木淳公 氏

事例発表者



ぶうふうう農園
代表
中嶋千里 氏



アイデア・スワインクリニック
獣医師
早川結子 氏



(有)高秀牧場
代表取締役
高橋憲二 氏

SDGs事業(JRA 畜産振興事業)の ワークショップを青森市で開催しました

◎ 開催日時:令和6年10月9日(水)(13:00~16:00)

◎ 会 場:アラスカ会館(青森市)

◎ 「畜産経営の持続可能な開発目標対応調査事業(JRA 畜産振興事業)」の第2回目のワークショップを青森市で開催しました。参加者は、青森県をはじめ、岩手、山形など東北地域を主に、畜産経営者及びその関係者20名、関係団体11名、行政関係者2名、飼料メーカー関係者6名、金融機関3名、学識経験者1名、報道関係者1名に事務局を合せて50名でした。



第1部では、千葉会場と同様に(公社)畜産技術協会の新井友美アニマルウェルフェア課長から、畜産におけるAWについての講演があった。

第2部では、GP センターでのロボット導入等 DX を活用した省力化、鶏卵の衛生管理向上を実践している事例、消費者からの強い要望に応えるため、約30年前から平飼いなどのAWIに配慮した飼養管理を実施している事例、最後にDXを活用した農場の見える化を実施し、豚の健康管理、従業員のスキルアップ、管理の効率化、省力化等を実施している事例が発表された。

なお、この開催にあたっての、青森県、山形県基金協会ほか関係各位から多大なご協力をいただきましたことに関して感謝申し上げます。

AW 講演者



(公社)畜産技術協会
アニマルウェルフェア課長
新井友美 氏

事例発表者



農事組合法人
トキワ養鶏
代表理事
石澤清行 氏



(有)東北ファーム
専務取締役
山本高久 氏



(有)ふなばやし農産
代表取締役
布施 久 氏



高橋畜産食肉(株)
専務取締役
高橋勝敬 氏

全日畜セミナー 「畜産経営の危機を克服し、持続発展のヒントを求めて」 を開催します

- ◎ 開催日時 令和6年12月16日(月) 13:00~16:00
- ◎ 会場 機械振興会館 地下3階 研修第2会議室
(〒105-0011 東京都港区芝公園 3-5-8)
- ◎ 次第 第1部 事例紹介
事例紹介者 (株)十勝加藤牧場 加藤賢一 氏 (北海道・酪農)
(株)松永牧場 松永和平 氏 (島根県・肉用牛)
(有)石上ファーム 石川貴泰 氏 (茨城県・養豚)
(有)東北ファーム 山本高久 氏 (青森県・採卵鶏)
- ◎ 参加者規模 会場参加者 60名程度
Web 視聴(ライブ配信)100名以内
※なお、Web 視聴申込方法等の詳細については、12月上旬に全日畜ホームページ
上でお知らせいたします。
ぜひご参加、ご視聴ください。

畜産に関する情報

- 「令和7年度農林水産予算概算要求の概要」が農林水産省のホームページに掲載されています。

<https://www.maff.go.jp/j/budget/r7yokyu.html>

- 新たな「酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針」及び「家畜改良増殖目標」についてのパブリックコメントを受け付けています。

農林水産省は、令和6年10月1日から令和6年12月31日17時00分まで(郵送の場合は当日消印有効)の間、いわゆる酪肉近と改良目標の案について、広く国民からの意見を募集しています。

農林水産省のホームページは以下のURL

<https://www.maff.go.jp/j/press/chikusan/suisin/241001.html>

酪肉近・改良目標の詳細は以下のURL

https://www.maff.go.jp/j/chikusan/kikaku/tikusan_sogo/rakuniku_kihon_houshin.html

インターネットからの意見提出は以下のURL

https://www.contactus.maff.go.jp/j/form/chikusan/suisin/tikusan_rakuniku_boshu.html

- 食料・農業・農村政策審議会畜産部会(令和6年度第7回)が11月13日に開催され酪肉近の見直しに向けて、飼料をめぐる論点整理がなされました。その際、「飼料の現状と課題の整理」「配合飼料価格安定制度の運用改善について」などの資料が提出されています。

令和6年度第7回畜産部会議事概要のURL

https://www.maff.go.jp/j/council/seisaku/attach/pdf/241113_gaiyou-1.pdf

資料:「飼料の現状と課題の整理」のURL

<https://www.maff.go.jp/j/council/seisaku/tikusan/attach/pdf/241113-4.pdf>

資料:「配合飼料価格安定制度の運用改善について」のURL

<https://www.maff.go.jp/j/council/seisaku/tikusan/attach/pdf/241113-8.pdf>



(文中での団体の略称標記について)

- 全日畜：一般社団法人 全日本畜産経営者協会
- 全日基：一般社団法人 全日本配合飼料価格畜産安定基金
- 工業会：協同組合 日本飼料工業会
- 〇〇県基金協会：一般社団法人 都道府県配合飼料価格安定基金協会